

「全国一斉自然かんさつ会」で観察会デビューをしよう。 春の自然に大接近！ミクロな観察会の開き方



同じ期間に同じテーマで全国各地で自然観察会を開いて報告し合い、全国の仲間と自然情報を共有する「全国一斉自然かんさつ会」。今年のテーマは「ミクロな視点」です。自然に大接近して生きものを観察してみると身近な生きものでも知らなかった意外な発見がたくさんあります。ワクワクする、ミクロな観察会。は自然観察会リーダー初心者の方でも実施しやすいテーマのひとつ。まだ観察会を開いたことがない自然観察指導員の方、この機会に観察会デビューしてみませんか。今回は、初心者の方のために、ミクロな観察会の開き方から、ミクロで見せると面白いもの、見せ方のコツまでご紹介します！

観察会を開いてみよう！

詳しくは、指導員講習会時の教材『自然観察ハンドブック』の293ページ以降、『自然かんさつからはじまる自然保護』の86ページ以降を参考にしてください。

準備

① 仲間集め 一緒に開催する仲間を集めよう！

- 自然観察指導員講習会の同期の仲間に連絡する。
- 自然観察指導員連絡組織（左下部）に連絡する。

② 観察会を企画する（コース・日取り・参加対象）

実際に野外を歩いて、エリア、観察の主役、日程、コースを決める。

☆日程は、参加を呼びかける人たちの遠足やお祭り、スポーツ大会などのイベントと重複させないように注意！

③ 本誌同封のチラシを使い、「全国一斉自然かんさつ会」にエントリー

④ 参加者の募集

広報ツール一例：

- エントリー後にNACS-Jから届くポスト



ターに観察会情報を記入し専用ポスターをつくる。

- NACS-Jウェブサイトからチラシ。ひな形をダウンロードし専用チラシをつくる。

広報先一例：地域の掲示板、ミニコミ誌、SNSやブログ

⑤ 保険に加入する

- 参加者のケガを対象とした保険（行事災害保険）や、リーダー自身のケガや賠償責任に対応できる保険に加入する。※指導員はNACS-J自然観察指導員災害保障保険制度に加入しています。

⑥ 再度下見

本番と同じ曜日・時間帯がベスト。観察ポイント、安全性、時間配分を再度確認。

⑦ 本番までの準備

受付名簿、班分け、スタッフ役割分担、観察道具を準備。

本番当日

観察会開始時の工夫

- コース説明とリーダー自己紹介、安全管理の説明。
- 開始時に興味を引きつける呼びかけ例：
「この足元の草、見たことあるよ！という人いますか？」
「では、この草の花、どんな形をしているか思い出して絵を描いてみましょう」
「では実際に見てみましょう。今日は虫になったような気持ちで、小さな小さな世界をのぞいてみましょう！」

観察会中の工夫

- ミクロをテーマにする場合、見えている世界は一人一人別なので、声をかけて、皆で楽しみたい。

- おもしろいものを見た人、発見した人に、実況中継してもらおうと観察を共有できる。
- 参加者が自分の世界に入る時間や静かな時間も持ちたい。



観察会の終了時の工夫

- 当日は想定外の観察が多々あるので、観察したものを無理に意味付けたり・学術的にまとめたりする必要は必ずしもなく、実際に観察したものを振り返り、今後促したい行動や次回観察会の案内をしてエンディングにする。
- まとめの例：「今日は○○をみんなで見ました。○○という意外な発見や○○ということが実際に見て分かりました。（ほか観察した事例を述べる）今日はたくさんの小さな春を見ることができましたね。」



観察会終了後

- スタッフ反省会
- 後日、ぜひNACS-Jに開催報告を送ってください！

ミクロな観察を楽しむコツ教えます！

アドバイザー：田畑清霧
(自然観察指導員講習会講師)



ミクロで観ると面白い自然

●地面

例えば公園の芝生で、体を“地面にダイブ”させて、芝の表面から葉の付け根、もっと下の方まで見ていくと、広がりを感じることができる。上から見下ろしたのでは気づくことのなかった葉の陰で、アリが食べ物を運んでいるかもしれない。



●花の中

花の中のつくりは複雑で観れば観るほど面白い。小さな虫がいっぱいいたり、雄しべに毛が生えてる花があったり。蜜腺を見つけてみるのも楽しい。



●葉

葉脈をたどると、つながりが分かる。葉っぱを観察することで、根から茎を経て葉に至る水の流れを伝えやすい。

●水滴

水滴に映りこむ遠くの景色をのぞくと美しい。落ち葉の穴にできた水滴をルーペ代わりに使ってみると面白い。

●木肌

樹皮には驚きがいっぱい。詳しくは22ページを参考に。

●岩の表面のコケのマット

コケの表面から岩に接するところまでじっくり見ていくと、まるで地球の縮図を観察する気分。



見方・魅せ方

●見たいものに体ごと近づきピントを合わせる

全身を対象物の世界に入っていくイメージ。対象物の位置関係や、そのまの姿を見ることができる。

●ルーペを目の近くで固定し見たいものを手に取って近づける

ルーペを持つ手を頬に固定または頬の前に持ってきて、見たいものを手に持ってレンズに近づけてピントを合わせる。ルーペを目に近づけておくと、ルーペの性能が発揮できる。拡大した視野が広がり、観察物に集中しやすい。

●対象物にルーペのピントを合わせたまま移動

地面・木肌・葉の表面などにピントが合った状態

で、そのまの状態で移動していくと、肉眼では気づかなかったものに出会い、とても深く広い世界に入れる。

●仰向けになって見る

●葉の裏などは地面に仰向けになって観察すると、虫などを見つけやすい。

葉が受ける太陽の明るさも感じられる。

●地面にダイブした後は、そのまま仰向けになって空を見上げ、マクロに地球を感じて観察会を終えるのも◎。

あると便利な道具

●ルーペ：2枚レンズの繰り出しルーペ（8倍程度）で、レンズが広めなのが明るくておすすめ。

●ビニールシート：地面が濡れている場合、うつぶせになる時に使用。

注意したいこと

●危険な生物

●観察に熱中すると接近しすぎることもあるので、特にツタウルシ、ハゼなどのかぶれやすい植物や、毒を持つ虫に注意。

●太陽に注意

●ルーペを上向きで使う時は太陽を見ないように注意。

●参加者の体や服を濡らさない、汚さない

●地面にダイブは、乾いた草や落ち葉の上かビニールシートを使用する。体や服が湿ったり汚れすぎると次の観察会に来てくれないかも。

全国の自然観察指導員連絡組織の一覧（TELまたはEメール、HPアドレス）

※下記事務局は指導員個人宅の場合もあります。

北海道：011-708-6313／青森：aomori01@sea.plala.or.jp／岩手：0193-78-2888／宮城：022-378-1039／秋田：018-845-6029／山形：0235-24-7373／福島：090-9422-9357／茨城：029-221-9412／栃木：0289-85-3050／群馬：0274-64-5138／埼玉：sidouin@nposizen-saitama.org／千葉：043-432-0433／東京：042-591-8441／小笠原：http://nacsjo.wordpress.com／神奈川：045-785-4668／新潟：0256-32-5716／富山：076-472-4644／石川：090-4686-4124／福井：0776-77-3566／山梨：055-284-4237／長野：026-254-2866／岐阜：0577-35-1769／富士箱根伊豆：ht.tanikawa@nifty.com／静岡西部：http://blog.goo.ne.jp/midikana「メッセージを送る」より／静岡中部：054-202-1511／愛知：052-711-3087／三重：sidouinmie@gmail.com／滋賀：090-3942-4681／京都：090-3059-3705／大阪：jimukyoku@jinenjo.org／兵庫：nacs-j_hyogo@googlegroups.com／奈良：0743-78-2247／和歌山：0736-64-4529／鳥取：090-9410-3209／島根：0854-86-0500／広島：shuji.wada@gmail.com／山口：0833-41-4289／徳島：088-623-6783／香川：0877-46-3690／高知：088-850-0102／福岡：092-400-1765／佐賀：mattahan@cap.bbq.jp／熊本：096-201-4313／大分：097-543-8510／宮崎：0985-77-2948／鹿児島：0995-67-6042／石垣島：0980-87-8522

▲都道府県、地域名のための掲載。詳しくはウェブサイト「指導員連絡会一覧（http://www.nacsj.or.jp/sanka/shidouin/support_list.html）」をご覧ください。